



今回の「Advanced course」は... 岩国城下、錦帯橋周辺での「フィールドワーク」! 直にみられるだけでなく、五感を使っての 刺激や発見に満ちあふれていました!

澄んだ青空と凜とした空気に包まれた11月6日。教職大学院や山口大学センターの地域貢献事業として、第5回「ちやぶ台次世代コーホート Advanced course」を県内巡回型公開講座として行いました。その会場がここ岩国市。午前中は「歴史と文化の風薫る横山地区」のフィールドワーク。サポートして下さった岩国市教委の先生方を含めて23人が参加しました。楽しかったですね!

当日の動き

7:30 山口大学発 「もちろん、ヤマミバスです。かわいい！」

9:00 岩国市役所で現地集合の人たちをピックアップ!

「和泉センター長のご挨拶 + なんかにバス遠足みたい！」

9:20 錦帯橋「渋滞で遅れた飯干先生 from Hiroshima もさすがのセーフ！」



フィールドワーク開始 テーマは「教育資源の開発と教材化」

錦帯橋「渡りまあ〜す → 正面の山頂にお城が！」

吉香公園「中本さんの恩師宅。なんと指定文化財！」

シロヘビの館「赤い目がキラリ! 歴史と理科のお勉強」

岩国城「ロープウェイから政治、基地や平和も考えた！」

歴史資料館「日本人って凄いね! こんなもの作って！」

鶺鴒い館「鶺鴒ってでかい! 凄い声で鳴く!」 みんなでビビった!

自由探求「ま、ちょっと休憩もいいかと...

だって、ここ...〇〇〇で有名だし! ねえ！」

11:55 フィールドワーク終了 → 岩国市民文化会館へ!

岩国市観光振興課、岩国市観光協会、錦川鉄道株式会社の皆さんには、
格別のご理解ご支援を頂きました。お礼申し上げます。ありがとうございました。



フィールドワークを眺めながら

フィールドワークという決まった形のない調査・研究活動では...

「関わる」→ 現場での個人の体験とそこから湧き出た疑問や関心こそ大切にしたいと思います。

「調べる」→ 身体感覚をフル活用しての情報収集、発見や意識化や問題化が重要だと思います。

「伝える」→ その体験や関心を他者に伝え、共有し、一緒に考える過程が私は面白いと思います。

フィールドワークをすれば良い、すれば学びがあるとは言えないでしょう。そこから起こる新たな学びこそ大切にしたいものです。

今回の参加者は、そこに気づき、そこを面白がり、そこを深めて、次の学びに繋ごうとする人たちばかりだったことが、私には一番嬉しいことでした。表情、笑顔やつぶやきにそれを感じた一日でした。

とっても充実した一日をありがとうございました。来年度はどこに行きますか? 候補地を教えてください。一緒に計画しましょう。人生は面白いことをするか、面白くするかだと思いますから。(霜川)



参加者のコメントから

学習環境について考えながら見て回っていました。

白蛇の館では、最初に映像が流れ、中間では子供たちが体験しながら学べるゲームがいくつも用意されていました。またゲームという形式は、子どもが白蛇に興味を持っていなかったとしても切り口として入りやすいので良い学びにつながると思いました。

反面、岩国城の内容は大人向けの展示でした。刀剣の展示がありましたが、末村くんとは「なんで刀剣が鐔の部分になかったりあったりするんかね？」と展示の意図を探りながら見ていきました。おそらく銘まで見せたいものと、衛府の刀など職種による展示など目的に応じた展示なのだと思います。岩国城の展示は観覧者の既有知識によって見え方が大分変わると思います。最近流行りの刀剣乱舞ファンからするとまた違った見え方がするのでしょうか。（指導主事）

日ごろ、ゆっくりと地域の文化に触れることができない中、本日のフィールドワークは文化や歴史に向き合える貴重な時間であった。地域の財産や歴史を知るという視点で今までと違った角度から史跡を見ることで、今までは見過ごしていたことを見ることができたと思う。例えば、吉川家の歴史や岩国城の築城の経緯、錦帯橋や白蛇に対する人々の想いなど、今まで何回も訪れたのに気づけなかった岩国市の魅力を再発見することができた。同じ学びをしても、視点や意識を変えるだけで新しい学びができるのと同じように、同じ見るものでも受け取り方によって「気づき」は変わるのだと実感した。今まで見てきた「いつもの」ものでも、少し視点を変えて見るのも大事だと思えた。（高校）

NHKの「ブラタロリ」のような雰囲気先生を先頭に進んでいくフィールドワークは、笑い学びで満たされる楽しい時間で、多くの問いをもつことができました。

まず錦帯橋に着いたときに思ったのは、「なぜ現在の岩国市のアーケード街と岩国城は離れているのか」です。熊本城と熊本のアーケード街は目と鼻の先にあります。岩国城があった江戸時代初期は、きっと城の周囲に武家屋敷や町人地があったのではないかと推測されますが、現在はほとんど民家と観光用の商店のみです。この違いは探究してみたいと思いました。

また、文化財保護や観光地としての在り方も考えさせられました。横山地区では、入館料を取りながらシロヘビの館をはじめ、積極的に観光地として整備しているようでしたが、山口市の大内氏関連の史跡は、ほとんどが無料で入館できるものが多いです。また、岩国城の復元天守は、錦帯橋付近からの景観を理由に、50m離れた位置に再建されており、「当時のまま」が必ずしも良いわけではないという現代的な文化財保護の在り方を問題提起していると感じました。

こうした観光地としての文化財保護や整備の在り方を学校現場でどのように学びにつなげていくのか、今後検討していきたいです。（中学校）

岩国総合高校の黒川真実先生が、自身のブレインストーミングを送ってくれました。紹介しましょう。

錦帯橋周辺を歩いて見つけたテーマ

城下町・歴史

街づくり

観光←昔の産業（楮：製紙、緋…）

建築・構造美

技術の継承（かけ替え・実験橋）

地形・地質

自然美（川・山・河原）

市民活動（観光ボランティア・世界遺産にする会）

新規商店の景観に配慮した店舗の外観（法律や共存の視点）

錦帯橋を通学路にする小学生の生活

橋のある風景（三大奇橋、その他橋）

四季折々の風景

観光地の中に住む生活

建築物保護

交通・交通量

美術館・博物館（展示を工夫する学芸員の仕事）

住み続けられる作り（公園・広場・神社）

ボーイスカウト

ユニバーサルデザインの視点（足の悪い人が錦帯橋を渡るには？ 岩国城の山道と広い道と登山コース）

食（レンコン・岩国寿司・・・）

イベント（花火・祭・鶴・芸術祭、スタンプラリー、IWAKUNI クエスト…） 夜のライトアップ

広告・広報・チラシ（情報・デザイン） あの古めかしいマップはあえて？ アップデートするなら？

かと思えば地域おこし協力隊とブランド推進班のおしゃれなパンフレットも

気候変動（集中豪雨、川の増水 etc…）・情報カメラの活用・是非

共存（遊具に英語が/基地の滑走路の民間利用/英語での観光案内） ベリースクールの絵画コンテストへの参加、鑑賞

ロードレース

錦帯橋絵本 英訳版も クラウドファンディング



教科横断的な学習のテーマとして、STEAMやSDGsとかそういうことに絡められる素材（教材）
テーマとしてどの教科にも絡められる

そういえば岩国総合の校章は五橋だなあ。校歌にも入っているし

